

令和5年度 卒業時満足度調査 結果と分析 -カリキュラム編成・運用・DPについて-

1. 調査方法の分析

1) 調査期間

令和6年3月7日～3月15日

2) 対象

令和6年3月卒業 4年生108名（2020年度入学生）

3) 方法

Google form を活用。

前年度に引き続き、教務委員会委員数名により、調査概要および回答の操作説明を行った。また、卒業式前日に行われた説明会の際、最初に本調査の時間を取り回答を依頼した。

4) 結果

回収率 87.0%（回答数：94 部）

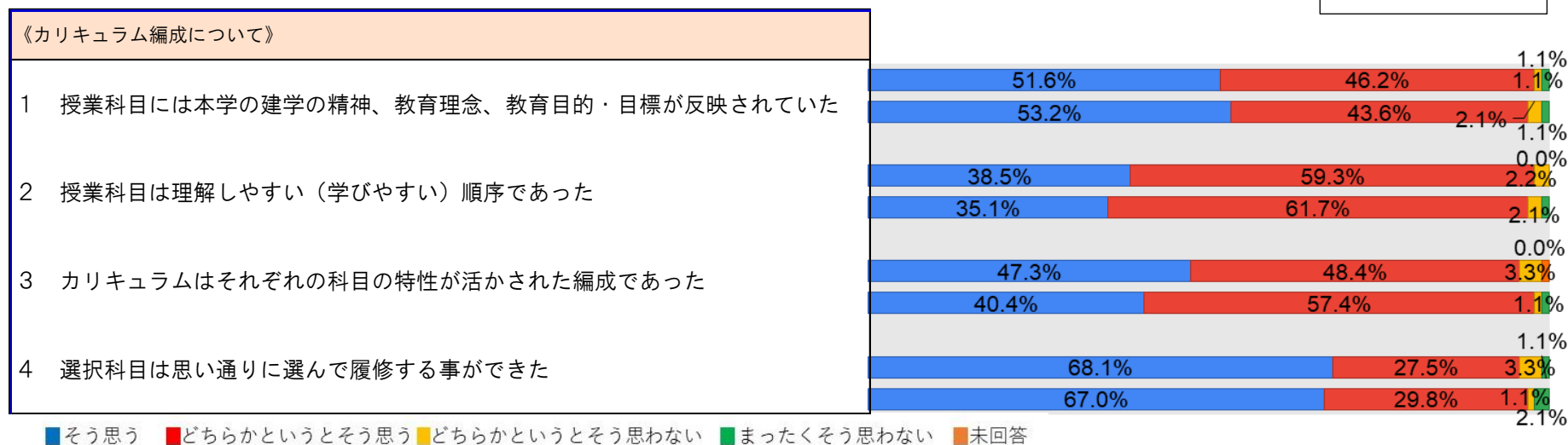
【考察】

R2年度のGoogleフォーム活用開始時期に回収率が低迷し、回収率上昇への対応を行っていた。R3年度からは、委員による本調査の概要や回答方法の説明とリマインドメールを実施し、R4年度は、前年度に加え、必ず4年生全員が集まる場で調査の回答時間を設け、回収率が88.3%と目標値を超えていた。R5年度は、前年度と同じ手法で調査を行い、目標値を超える87.0%であった。次年度以降も高い回収率を維持するため、委員による概要説明および4年生が集まる場での回答時間の確保を継続すべきであると考えます。

2. 結果概要と分析

(1) カリキュラム編成について

上段：令和4年度
下段：令和5年度



(以下、カリキュラム編成に関する自由記述)

- ・理念等が反映されたカリキュラムになっており幅広い内容の学習ができるようになっていたと思う。
- ・選択科目において、興味のある分野を履修できて良かった。
- ・就職活動と時期が被っているので、卒論の時期をもっと早めた方がいいと思います。
- ・卒業研究をもっと早く終わらせるべきだと思う。

【考察】

各設問について「そう思う」「どちらかというと思う」を選択した学生の割合 ※過去3年間のデータとの比較

	R5年度	R4年度	R3年度	R2年度
1. 授業科目には本学の建学の精神、教育理念、教育目的・目標が反映されていた	96.8%	97.8%	95.7%	90.9%
2. 授業科目は理解しやすい順序であった	96.7%	97.8%	92.5%	92.3%
3. カリキュラムはそれぞれの科目の特性が活かされた編成であった	97.8%	95.7%	94.6%	92.2%
4. 選択科目は思い通りに選んで履修することができた	96.8%	95.6%	92.5%	87.0%

項目1については前年度より肯定的な回答割合は減少しているが、「そう思う」の割合は増加しており、カリキュラム編成が本学の理念に沿った学びにつながっていると考える。

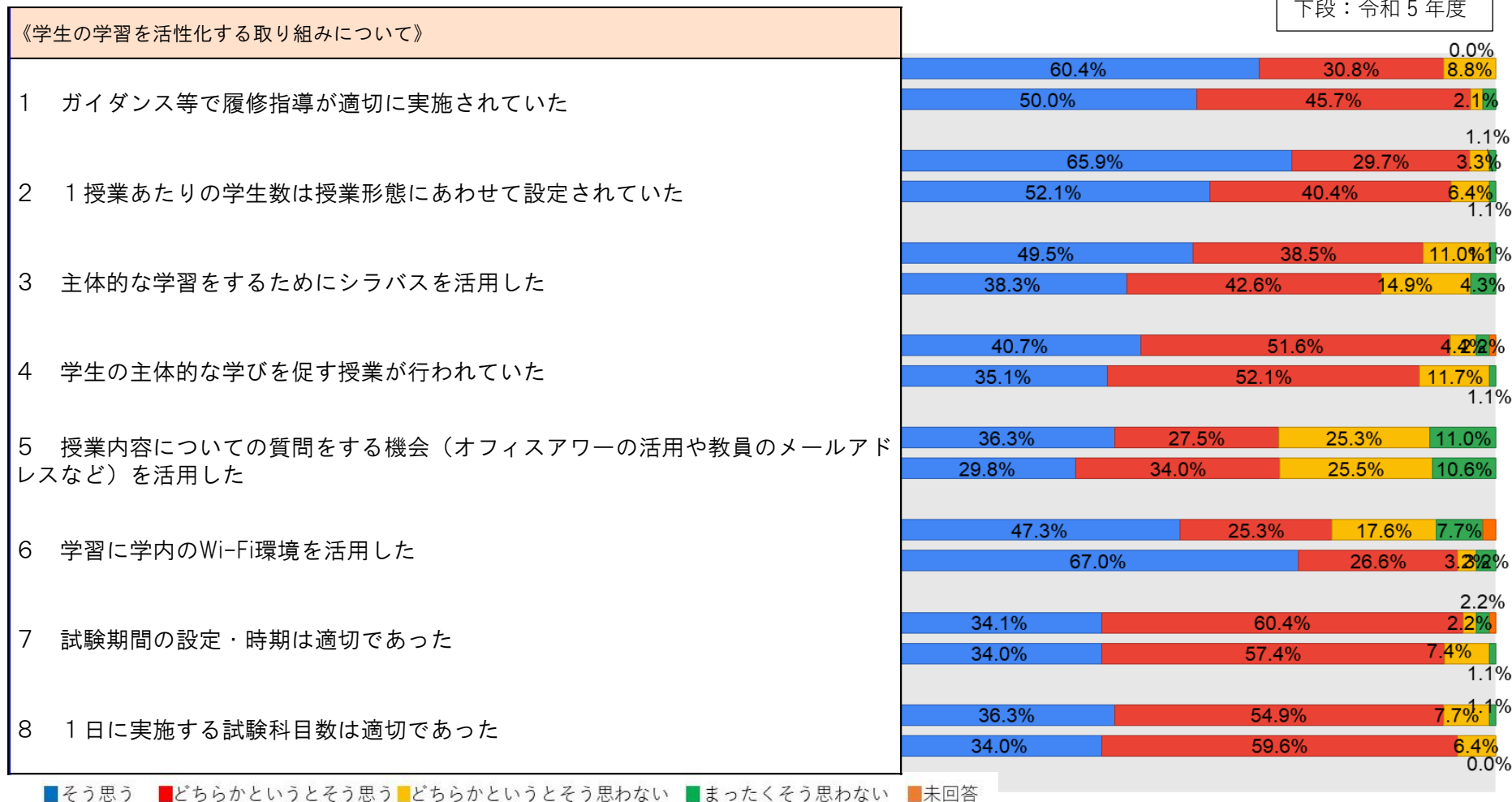
項目3、項目4は年度を追うごとに「そう思う」の割合が増加している。自由記載にあるように、学生が科目の特性を踏まえ、興味を持った分野の科目を選んでいる様子から、学生のカリキュラムに対する理解が得られていると推察された。

令和5年度の自由記載では、卒業研究の履修時期についての記載が多くみられた。卒業研究は看護研究方法論の学習と連続性を持つ科目であり、学生に対して周知することが必要であると考えられる。

(2) カリキュラムの運用、学生の学習を活性化する取り組みについて

上段：令和4年度

下段：令和5年度



(以下、学生の学習を活性化する取り組みに関する自由記述)

- ・シラバスを確認することの意識をもっと高められれば、効果的な学習に繋がるかもしれないと思います。
- ・学生同士で意見を交換しながら進める学習方法は記憶として定着しやすいため良いと感じた。
- ・グループワークなど他の人の意見を取り入れるワークが多い方が学びに繋がったと感じる。
- ・小テストがあった科目の方がよりこまめに復習ができたので良かったと思う。
- ・自分で資料を作成したりする機会が多かったことで、専門的な知識や理解を深めることができて良かった。

【考察】

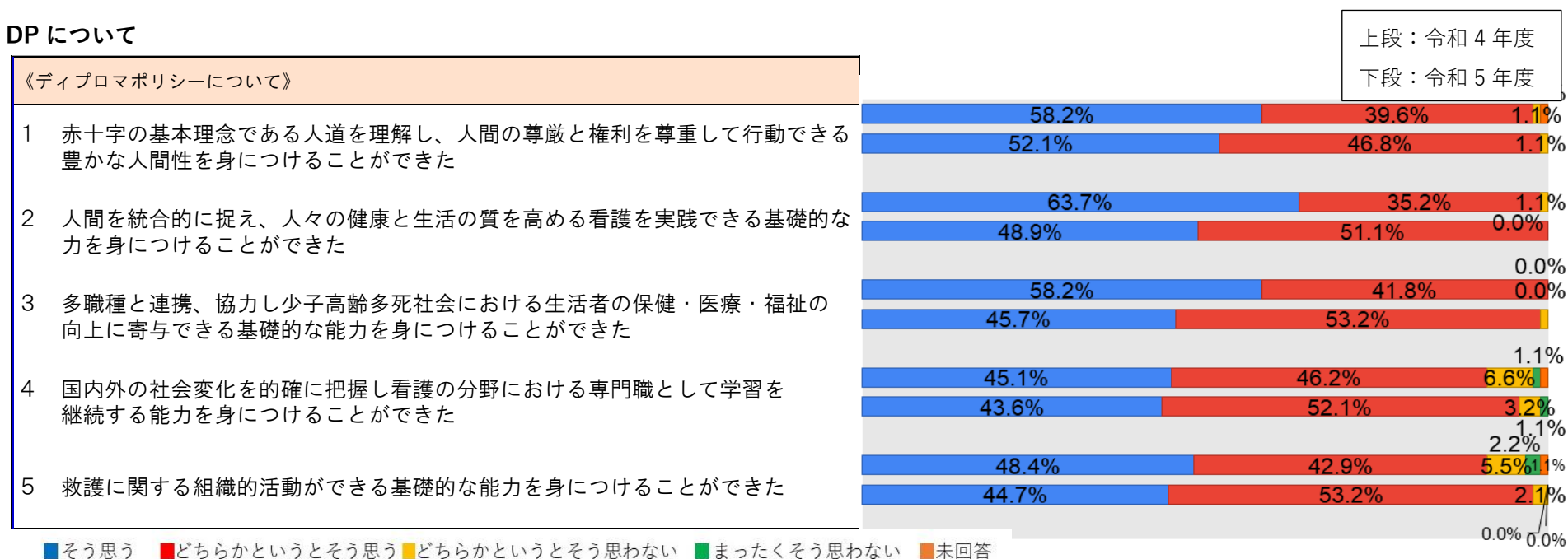
項目1は、「そう思う」「どちらかというと思う」といった肯定的な回答が、R4年度91.2%からR5年度95.7%と増加しており、学生はガイダンス等で行われた履修に関する説明から十分に理解を得ていると推察された。

項目3のシラバスの活用について、否定的な回答をした学生の割合は、R4年度では、12.1%と減少していたが、R5年度では19.2%と増加に転じていた。自由記載にもあるように、学生がシラバスを確認することの意識をもっと高められるよう、教員による授業毎のシラバス活用の周知を継続する必要があると考える。

項目4の主体的な学びを促す授業に関連して、自由記載では、グループワーク等の学生同士の取り組みや小テストによる復習、課題での資料作成等による学習が効果的であったとの回答がみられた。各授業の到達目標に沿った授業方法が検討・実施されており、今後も継続すべきであるとする。

項目6では学内Wi-Fi環境の改善に伴い、その利用が進み、R5年度の回答では「そう思う」「どちらかというと思う」の割合が93.6%に達し、ほとんどの学生が学内Wi-Fi環境を活用していた。

(3) DPについて



【考察】

R4年度と同様に、すべての項目において、「そう思う」「どちらかというと思う」といった肯定的な回答の割合が高い結果が得られ、多くの学生がDPを達成できたと考えていると推測できる。さらに、項目4と項目5では、R4年度から肯定的な回答が増加している。これは、学年ガイダンスのDP説明や授業毎のシラバス活用の周知が成果を上げたと考えられる。次年度以降もこれらの取り組みを継続することが重要と考える。